

社会科における段階的防災教育の在り方 (1)

— 英国の目標観に基づく3つの授業試案の開発を手がかりに —

竹中伸夫*

A study about structure of sequence in education about disaster prevention (1):
By the development of three lessons based on the History education in England

Nobuo TAKENAKA

(Received October 27, 2022)

Abstract

The aim of this paper is to clarify the principal of formation and the structure of sequence in education about disaster prevention, by extracting the principal of sequence from History education in England and developing three lessons about same teaching materials at different stage of schools.

The result of this study, I extracted the three stages, the stage of phenomenal comprehension made use of comparison, constitutional comprehension made use of cause-and-effect relationship, and social comprehension made use of selective application from History education in England and developed three lessons at different stage of schools about the present situation and problem in salvage place.

Key words: カリキュラム・マネジメント, イギリス, シークエンス, 防災教育

I. 問題の所在

本小論の目的は、社会科における防災教育の異校種間連携の在り方について、英国の歴史教育より抽出したシークエンス原理に基づき、3つの授業試案を実際に構想することで、防災教育の段階的カリキュラムに関する一つの指針を提供することである。

このような研究を行う理由としては、防災教育の実践の現状があげられる。東日本大震災や熊本地震などをうけて、これまで以上に防災教育の重要性が増している。そもそも防災教育の目的は、災害発生の理屈、社会と地域の実態、備え方、対処の仕方など、非常に多くのことを習得・理解し、それに基づき行動できるようになること、と定義できるだろう。しかしながら、現在我が国においては、「防災教育」という特別な枠があるわけではなく、社会科や理科、総合的な学習の時間などで、それぞれに進められているため、系統的・体系的に行われているとは言えない¹⁾。それらが各教科の中でそれぞれに行われているのは、断片的な実践にとどまり、防災教育が真に

目指す目的を実現できないのではないか。

そこで、こうした目標の多様性と複雑性、および実践の現状を鑑みたとき、市民的資質として社会参画をも視野に入れた実践を行うことが求められている社会系教科²⁾を核とすることで、より系統的・体系的な防災教育を実践できるのではないだろうか。無論、現状社会系教科において防災教育を行う場合、具体的にどのようなカリキュラムを構築し、系統的・体系的に実践すればよいかに関して、明確な指針があるわけではない。

そこで、IIで英国の歴史教育の目標構造を手掛かりに、具体的にどのようなカリキュラムを構築し、系統的・体系的に実践すればよいかに関する指針を抽出したのち、IIIでその指針に基づき実際に授業試案を構想するという手順で行う。このとき3つとは、防災教育を社会科で実践するということを念頭に置いたもので、小学校中学年、小学校高学年、中学校社会科の3つを指す。それぞれの段階で、同一の内容（今回は避難所の現状と課題）を事例に、3つの授業モデルを構想するということである。

それによって、各学校段階においては、同じような内容を取り上げる場合、どこまで取り扱い、どの

* 熊本大学大学院教育学研究科

ように帰結させるべきか、そこにどのような原理の下、体系的・系統性を設け、カリキュラムとして構築し、社会系教科において異校種間の連携も踏まえながら、積極的に防災教育を実践していくべきなのだろうか。そうした研究課題に対して、一つの指針を明確に示すことができるのではないだろうか。

Ⅱ. 英国の歴史教育の目標構造 —91年版ナショナル・カリキュラム 「歴史」の到達目標を手がかりに—

91年版ナショナル・カリキュラム「歴史」の到達目標の一覧を表1として次ページに示そう。表1は91年版「歴史」³⁾をもとに、訳出・再構成したものである。ナショナル・カリキュラムは、その後改定を数度行っているが、基本的にその方針に大きな変更はないこと⁴⁾、また、改定のたびに簡略化されていることなどを踏まえ、目指すべき教育像が最も詳しく明確に記載されている91年版ナショナル・カリキュラム「歴史」を対象として選択した。

表1にもあるように、91年版「歴史」には、3つの目標が掲げられている。「歴史の知識と理解」、「歴史の解釈」、「歴史的資料の活用」である。それぞれの目標は、全部で10のレベルに分けられており、KS1（5～7歳）ではレベル1～3まで、KS2（7～11歳）ではレベル2～5まで、KS3（11～14歳）ではレベル3～7まで、KS4（14～16歳）ではレベル4～10までをそれぞれ配当するよう定められている。ここから歴史の認識内容における段階性を解明し、もって防災教育のカリキュラム構築に向けての指針を確定しよう。

では、英国の歴史教育の到達目標には、どのような段階性が確認できようか。到達目標1の具体的内容に着目して分析・抽出しよう。同内容を詳細に検討した結果、そこに見受けられる（歴史）事象の操作方略およびその成果としてのわかり方に3つの段階性が確認できるということである。それぞれ比較・対比に基づく現象的理解、関連付けに基づく構造的な理解、選択活用に基づく社会的理解と銘打とう。どうだろうか。

第一の段階だが、ここはレベル1～3が相当する。レベル1～3においては、過去についての出来事を年代順に並べたり、過去の現在との違いを確認したり、時代ごとの違いを確認したりといったことが求められている。こうしたことを確認するためには、複数の事象を比べ、その特徴における違いを見つけ、その違いを時代順に列挙することが必要となる。以上のことから、第一段階において必要な操作は複数

事象の比較・対比となり、その結果としてわかるのは、現象的な相違性（特殊性）といえる。

第二の段階はレベル4、5がそれにあたる。この段階においては、これまでの学習成果であるところの変化や特殊性の把握に加え、歴史的出来事の原因と結果の関係性を把握することが求められる。原因と結果の関係性を把握するためには、複数の事象間の関連を探し、因果的に（構造的に）その関係性を解明しなければならない。以上のことから、第二段階において必要な操作は複数事象の関連付け（因果関係）であり、その結果としてある事象を構造的にわかることが求められているといえる。

最後の段階とは、レベル6以降がそれに相当する。この段階では、レベル6と7にあるように、ある歴史的状況（事象）におけるさまざまな人々の理念や態度を記述し、その理念や態度と環境（社会）との関連性を知ること、事象とその時代の社会的価値（理念・環境）との因果関係を把握し、その因果関係に基づき、その事象からその時代（社会）の特徴を説明することがもとめられるようになっている。そのうえで、レベル8以降になると、その時代（社会）の違いによる理念や環境の多様さについても、同時に把握することがもとめられるようになっている。このように、この段階では、ある特定の時代の時代構造を因果的に把握するだけでなく、それによって、時代構造の相違やその移り変わりについても把握することが求められているといえよう。こうした時代構造およびその移り変わりについて把握しようと思えば、第二段階までに習得した関連付けと比較・対比を適宜使い分けたり、両方用いたりしなければ困難である。その意味で、この段階は選択活用の段階といえ、その結果として、特定の社会（時代）の構造的な特徴を社会的にわかることが求められているといえよう。

到達目標1の具体的内容から、英国の歴史教育の目標構造の段階性の一つに、三段階の階梯があることが判明した。次節では、この階梯に基づき、同一内容（避難所の現状と課題）についての、3つの授業モデルを構築しよう。

Ⅲ. 避難所の現状と課題に関する 3つの授業モデルの開発

1. 比較・対比に基づく現象的理解をめざす小学校 中学年の授業モデル

避難所の現状と課題に対して、比較・対比を用いて現象的にわかることをめざす、小学校中学年の授業モデルを資料1として5～7ページに記した。

表1 1991年版ナショナル・カリキュラム「歴史」の到達目標

レベル	到達目標1: 歴史の知識と理解	到達目標2: 歴史の解釈	到達目標3: 歴史的資料の活用	KSへの配当
	歴史的变化や原因を記述, 説明し, 歴史における様々な特徴を分析する能力	歴史における複数の解釈を理解する能力	歴史的資料を利用し, その信頼度や価値を判断する能力	
10	複雑な歴史的状況を記述し, 分析し, 説明したことによって生じる諸問題について理解する	歴史を可能な限り客観的にしようとすることに含まれる問題点に理解を示す	歴史的証拠の不確実の本質を説明する。すなわち歴史的資料に基づく判断は暫定的であるかもしれないということに気づく	↑
9	原因, 動機, 結果がどれほど相互に関連する可能性のあるものであるかについて理解する なぜ, 個人が必ずしも自分が属する集団や社会に共通の理念や態度を形成するものではないのかを説明する	異なる集団や社会が異なる方法で歴史を解釈し, 利用している理由を説明する	資料というものは, それを必要とする問題に依存して, 多少なりとも役に立つものであることを理解する	
8	いくつかの関連する諸原因の相対的重要性を説明する 複雑な歴史的状況における人々の理念や態度や環境が多様であることを理解する	態度や環境が歴史的出来事や発達に対する個人の解釈にどれほど影響しうるかを理解する	どのようにすれば信頼できない資料でも, 役立てることができるかを理解する	
7	変化の類型は複雑なものとなりうるものであることを理解する ある歴史的出来事における諸原因がどれほどつながりを持つものであるかを理解する さまざまな人の理念や態度はしばしば, その人が暮らす環境に関係するものであることに気づく	歴史的出来事や発展に対する異なる解釈の長所と短所を記述する	それが作り出されたときの状況に照らし合わせることで, ある歴史的資料の信頼度や価値を判断する	
6	変化と進歩が一樣ではないということに理解を示す 原因と結果の重要性が変化しうるものであることを理解する ある歴史的状況におけるさまざまな人のさまざまな理念や態度を記述する	歴史的解釈がどれほど資料の選択に依存するかということを示す	ある特別な研究に対する証拠としてのいくつかの歴史的資料の有効性を比較する	
5	さまざまな種類の歴史的变化を区別する 異なるタイプの原因と結果を確認する ある歴史的状況における諸特徴がどれほど相互に関連しあっているかを理解する	一般的な説明も含め, 過去の解釈はこれまで理解されてきた解釈とは異なることもあるということを理解する	ある特別な研究に対する証拠としての内容に言及することで歴史的資料の有効性を論じる	
4	時間の流れとともにあるものは変化し, またあるものは変化しないということを認識する 歴史的出来事には普通, 一つ以上の原因と結果があるということに気づく ある時代のほかとは異なる特徴を記述する	証拠が不足すると, 過去に対して異なった解釈をすることにもなるということを理解する	異なる歴史的資料から引き出される情報を組み合わせて活用する	
3	時間の流れに伴う変化を記述する 歴史的出来事や発展に理由付けする 過去の時代ごとの違いを確認する	事実と解釈を区別する	歴史的資料から類推する	
2	有名な事象を年代史的秩序の中に位置付ける 過去に人々がそのように行動した理由を主張する 過去と現在の違いを確認する	過去に関するそれぞれの物語は, おこったできごとについてさまざまな説明を加えることが可能となることを理解する	歴史的資料は過去に関する疑問を喚起させ, それに答える助けとなることを理解する	
1	過去についての出来事を年代順に並べる 個人の行為に理由付けする	物語は実在の人物についてのものかあるいは, 架空の登場人物のついてのものであるということを理解する	歴史的資料から獲得した情報を伝達する	

Department of Education and Science, *HISTORY in the National Curriculum (England)*, HMSO, 1991., より執筆筆者訳出, 再構成。

資料1にもある通り、本実践は1時間を想定している。授業の冒頭、熊本地震における国府高校のパイプ椅子によるメッセージの動画を見せ、なぜこのような状況になったのか、と課題の提示を行う。

展開1では、その理由として、指定避難所と指定緊急避難場所の違いを示し、国府高校は指定緊急避難場所であって、指定避難所ではなかったため、行政側が避難者を想定しておらず、当初は支援物資が配布されなかったことなどを説明する。ただこうした避難行動は、熊本地震だけではないことを説明し、なぜ、指定避難所以外に避難するのか、と問いを深掘りする。その理由を予想させたのち、出てきた答えに対して解説を踏まえながら説明するのが展開2である。ここでは、(1) 指定避難所がどこか知らない、(2) 指定避難所には行けない(遠い)、(3) 指定避難所以外の方がいい理由が何かある、という3つの予想が出ると想定し、それに基づく展開を構想している。

本小单元では、それら3つの予想を展開することで、避難所にはプライバシーの問題や狭さ、古さ、危険な場所に立地、というもろもろの課題があることを確認することとなっており、そのような課題がある中で、自分たちに何ができるかを終結において構想させるという授業展開となっている。

基本的に、避難所が現在どのような状況にあるのかを現象的に(具体的に)把握することを目的としており、そのために、指定避難所と指定緊急避難場所とを比較して違いを明らかにしたり、熊本地震と東日本大震災とを比較させて共通点を出したり、といった学習過程を構想している。以上が、比較・対比に基づく現象的理解をめざす小学校中学年の授業モデルの詳細である。

2. 関連付けに基づく構造的理解をめざす小学校高学年授業モデル

避難所の現状と課題に対して、関連付けを用いて構造的にわかることをめざす、小学校高学年の授業モデルを資料2として7～8ページに記した。

資料2にもある通り、本実践は1時間を想定している。授業の冒頭、熊本地震における国府高校のパイプ椅子によるメッセージの動画を見せ、指定避難所と指定緊急避難場所との違いに着目させたのち、指定緊急避難場所ではない施設の共通点が、熊本市の保有施設でないことを意識させる。避難所整備(指定)・開設が市町村の業務であることから、市の保有施設でないものについては、指定緊急避難場所とすることができたとしても、指定避難所とは指定しにくい旨を把握したのち、中学年でも確認した

避難所の課題を思い出させる。そのうえで、避難所整備(指定)・開設が市町村の業務であるにもかかわらず、なぜ避難所には様々な課題があるのか、と課題提示を行う。

展開1では、その課題の原因を熊本市の財政状況からひも解く。避難所の整備(指定)・開設は市町村の業務ではあるが、熊本市ほどの予算規模であっても、その財政状況から、課題を克服できるほどの整備費用は到底捻出できないことを確認する。とすると課題克服のためには、何らかの対策によって収入(歳入)を増やすしかないが、増税をしても結果的には増収にはならず、過度の借金依存は別の法律に抵触しかねない。結果的にその方法としては、国が責任をもって、避難所のかさ上げ等を決め、そのための補助金を全国の市町村に配布する(国庫支出金を増やす)しか道がないことを確認するのが、展開2である。

本小单元では、それら課題の原因を地方自治の脆弱性に求め、その克服には、国に依存するしかない現状を説明している。いわば、避難所を事例に、課題を構造的に把握することを目的とし、そのために、財政状況などと関連付けて説明する学習過程を構想している。以上が、関連付けに基づく構造的理解をめざす小学校高学年の授業モデルの詳細である。

3. 選択活用に基づく社会的理解をめざす中学校授業モデル

避難所の現状と課題に対して、選択活用をおこなって社会的にわかることをめざす、中学校の授業モデルを資料3として9～10ページに記した。

資料3にもある通り、本実践は2時間を想定している。授業の冒頭、高学年で確認した課題(公助の拡充の重要性)を問題として提起する。予算(財政)とは、社会のメンバー全員が必要とするもの(なければならぬもの)を提供するためにあり、どのような社会を築きたいかに応じて、予算(財政)の在り方を考える必要があるものであるから、この課題を克服するには、財政(予算)を見直す必要があることを確認し、どのように財政(予算)を見直すかを2時間かけて構想する過程として組織している。ここでは、ジグソー法を採用し、9つの予算見直しの可能性(4つの歳出削減と5つの歳入増)を個別に検証し、それらの成果を持ち寄って、どのように予算(財政)を見直すかをグループで検討している。結果として、歳出削減派、歳入増派、現状維持派のいずれの回答がグループで優位となるかはわからないが、それぞれの回答がいかなる社会となりうるのかをコメントし、授業のまとめとしている。ここで

社会的にわかるとは、目指すべき社会像を踏まえてわかる（判断する）ことを指し、そのために、9つの可能性を比較・検討したり、その結果としての社会と結びつけて考えたりといった学習過程を構想している。以上が、選択活用に基づく社会的理解をめざす中学校の授業モデルの詳細である。

IV. 結 語

本小論の目的は、社会科における防災教育の異校種間連携の在り方について、英国の歴史教育より抽出したシークエンス原理に基づき、3つの授業試案を実際に構想することで、防災教育の段階的カリキュラムに関する一つの指針を提供することであった。

研究の成果としては、比較・対比に基づく現象的理解、関連付けに基づく構造的な理解、選択活用に基づく社会的理解と形容できる3つの階梯を、英国の歴史教育の目標観から抽出し、それに基づく同一内容（避難所の現状と課題）の3つの授業モデルとして実際に開発できたことにある。

教師によるカリキュラム・マネジメントが真に実施されるために必要なのは、カリキュラムを構築する際のモデルであるが、今回のモデルが果たして適応可能か、適応可能だとして効果がどの程度あるか、その効果の適否を判定する方略はどうすればいいか、

あるいはほかにいいモデルがありうるか、引き続き検討が必要である。

注

- 1) 我が国の防災教育の現状に関しては、学習指導要領などを確認いただきたい。
文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編』日本文教出版、2018年、ほか。
- 2) 新科目「公共」の目標を参照のこと。
文部科学省『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』東山書房、2019年。
- 3) Department of Education and Science, *HISTORY in the National Curriculum (England)*, HMSO, 1991.
- 4) 二井正浩「平成20年版学習指導要領と2008年版英国ナショナルカリキュラムにおける歴史学習－前期中等教育を事例にして－」『社会系教科教育学研究』第20号、2008年、pp. 51-60、などを参照のこと。

付 記

本研究は、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究，20K02768）を受け実施した研究の一部である。

資料1：小学校中学年段階（比較・対比によって現象的にわかる場合）の授業試案

単元名「避難所の現状と課題」

単元の目標

- ・避難者が指定避難所以外にも避難している現状を把握できる
- ・避難所には現状、プライバシーの問題や狭さ、古さ、危険な場所に立地、というもろもろの課題があることが理解できる
- ・上記の現状や課題を踏まえて、自分にできることを構想できる

単元の展開

過程	教師の発問や指示	教授学習過程	資料	児童・生徒に習得させたい知識・技能（予想される反応）
導入：課題提示	これは何だろう？	T：発問する P：答える	①	熊本地震の際に熊本国府高校に設置された支援物資を求めるSOSのメッセージ 物資が届かなかったから (例) それだけ、混乱していたから？
	なぜ、熊本国府高校にこのようなメッセージが作られたのか？	T：発問する P：答える		
	なぜ、物資が届かなかったのか？	T：発問する P：答える		
	この資料を見てみよう 指定緊急避難場所とは何だろうか？	T：資料提示 T：発問する P：答える	②	「指定緊急避難場所」は、津波、洪水等による危険が切迫した状況において、住民等の生命の安全の確保を目的として住民等が緊急に避難する施設又は場所を位置付けるもの 「指定避難所」は、避難した住民等を災害の危険性がなくなるまで必要な期間滞在させ、または災害により家に戻れなくなった住民等を一時的に滞在させることを目的とした施設となっている 熊本国府高校は「指定緊急避難場所」であって、「指定避難所」ではない
	指定避難所とは何だろうか？	T：発問する P：答える		
	今回の、熊本国府高校は、どっち？それとも両方？	T：発問する P：答える		

社会科における段階的防災教育

1 時 間 目	展開1：避難所の現状	この資料を確認しよう。 こうした避難行動は、熊本地震に限ったことではない 市町村が予定していない場所に避難する人が多いと、どうい問題が起こるか？	T：資料提示 T：説明する T：発問する P：答える	③ 指定避難所として予定（把握）されていなかった施設のため、本来は支援物資が届く予定はなく、このメッセージのおかげで存在が行政等に認知され、物資が提供されるようになった ④ 熊本地震は、こうした避難者（行政が把握していない場所に避難していた人、車中泊も含む）が多数存在した 東日本大震災の際、宮古市では、85か所避難所が開設されたが、もともと指定避難所だったのは、19か所のみ 避難者の状況把握が困難（車中泊による健康被害【エコノミークラス症候群を含む】） 物資の提供が困難 など
	展開2：避難所の課題	なぜ、指定避難所以外に避難するのだろうか？ もし、（1）だとすると、市町村や自分たちはどうすればいいだろうか？ もし、（2）だとすると、市町村や自分たちはどうすればいいだろうか？ もし、（3）だとすると、市町村はどうすればいいのだろうか？ では避難所の課題は？ 次の資料を見てみよう 避難所での一番の課題は何だろうか？ 避難者1人あたりに割り当てられる面積はどれくらい知っているか？ 現行水準で試算しても足りてない市町村がある中で、そんなことは可能か？ 他に、避難所の課題はあるだろうか？ この資料（避難所としても使われることの多い学校に関する資料）を見てみよう。 さらに、この資料（同じく学校に関する資料）を見てみよう	T：発問する P：予想する T：発問する P：答える T：資料提示 T：発問する P：答える T：資料提示 T：発問する P：答える T：発問する P：答える T：説明する T：発問する T：資料提示 T：資料提示 T：説明する T：資料提示 T：説明する	⑤②⑥ 市町村 広報を徹底する 指定避難所と指定避難場所の区別が難しいので、共通化を進める 自分たち 情報把握に努める（熊本市のホームページでは、開設中の避難所が検索できる） ⑦ 市町村 近くに作る＝数を増やす 避難所の数が足りていない地域もあること（特に都市部） 熊本市はそういった試算が確認できないので、避難所の過不足は分からない 自分たち 共助（互いに誘い合って、避難・送迎） 今の避難所の課題を改善する ⑧ 周りの音やプライバシー 自治体によってまちまちだが、一人1.65㎡～2㎡くらい（おおむね畳1畳） もっと広くすれば（避難所を多くすれば）、個人に割り当てられるスペースも多くなるのではないかと ⑨ ただ、感染症対策などを考えると、確かに狭い また、人道支援における国際的な最低基準（スフィア基準、3.5㎡）以下 ⑩ 建築後25年以上経過した建物の面積が全体の約8割 ⑪ 避難所である学校の約3分の1が危険な場所にある 避難所に避難した方が危険な可能性すらあるということ
	終結：現象を見据えて考える	避難所に関する現状と課題を踏まえて、自分たちにできることは何だろうか？	T：発問する P：答える	公助の限界を踏まえた自助・共助の重要性 自助：避難所以外への避難（自宅、知人宅、ホテルなど）を災害が切迫する前に考えておくべき 共助：避難所に避難する場合も、互いに誘い合って、避難・送迎する

資料出典

- ①youtube映像（国府高校のパイプ椅子による物資メッセージ）（URL：https://www.youtube.com/watch?v=qMeJYxCEcyU, 最終閲覧2022年9月10日）
- ②熊本市指定緊急避難場所・指定避難所一覧（URL：https://data.bodik.jp/dataset/431001_seisaku15/resource/b1f226fa-e1fa-4c09-97a6-63b790c0372c?view_id=7fe5bb30-6095-478c-b810-1a717e01d735, 最終閲覧2022年9月10日）
- ③内閣府ホームページ：熊本地震被災者アンケートの分析結果に基づく熊本地震における住民の避難理由と避難期間（URL：https://www.bousai.go.jp/jishin/nankai/taio_wg/pdf/h290526shiryo02.pdf, 最終閲覧2022年9月10日）
- ④内閣府ホームページ：首都直下地震の避難者対策について（URL：https://www.bousai.go.jp/jishin/syuto/taisaku_wg/5/pdf/3.pdf, 最終閲覧2022年9月10日）
- ⑤熊本市の避難場所（URL：https://www.city.kumamoto.jp/loc/pub/default.aspx?c_id=15, 最終閲覧2022年9月10日）
- ⑥熊本市防災情報ポータルサイト（URL：https://city-kumamoto.secure.force.com/K_PUB_VF_Top?kuiki=%E4%B8%AD%E5%A4%AE%E5%8C%BA&x=0&y=0, 最終閲覧2022年9月10日）
- ⑦NHKホームページ（URL：https://www3.nhk.or.jp/news/special/saigai/select-news/20200624_01.html, 最終閲覧2022年9月10日）
- ⑧産経新聞記事（URL：https://www.sankei.com/article/20160515-E577QK73LRPMNPWNOJLEB6KMSM/photo/MKDW07AANJ3NHJ5OH27IVW0Y/, 最終閲覧2022年9月10日）

⑨スフィアハンドブック（URL：https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2019/10/spherehandbook2018_jpn_web.pdf，最終閲覧2022年9月10日）

⑩文部科学省ホームページ：公立学校施設の老化対策の推進（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1334433.htm，最終閲覧2022年9月10日）

⑪文部科学省ホームページ：浸水想定区域・土砂災害警戒区域に立地する学校に関する調査の結果について（URL：https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_bousai-000015375.pdf，最終閲覧2022年9月10日）

資料2：小学校高学年段階（関連付けによって構造的にわかる場合）の授業試案

単元名「避難所の現状と課題」

単元の目標

- ・熊本市の予算を事例に、避難所の課題（狭さや老化など）を解消することが困難な理由を、具体的にわかる
- ・避難所の現状と課題に対して、地方自治の脆弱性という観点から構造的にわかる
- ・上記の構造を踏まえ自分にできることを考えられる

単元の展開

過程	教師の発問や指示	教授学習過程	資料	児童・生徒に習得させたい知識・技能（予想される反応）
導入：課題提示	これは何だろう？	T：発問する P：答える	①	熊本地震の際に熊本国府高校に設置された支援物資を求めるSOSのメッセージ
	なぜ、熊本国府高校にこのようなメッセージが作られたのか？	T：発問する P：答える		指定避難所として指定（把握）されていなかった施設だったため、もともと支援物資が届く予定がなかったところにもかかわらず、多数の避難者がいたため
	なぜ、熊本国府高校は指定避難所ではなかったのか？	T：発問する		
	資料②を基に、指定緊急避難場所であって、指定避難所でない施設を探そう	T：資料提示 P：作業	②	熊本国府高校，済々黌高校，熊本大学，熊本大学教育学部附属小・中学校，熊本農業高校・・・
	その共通点は何か？	T：発問する P：答える		私立，県立など，市立でない施設（建物）
	なぜ，そのような施設は，指定避難所でないことが多いのか？資料③（熊本市の避難所開設マニュアル）を見ながら考えよう	T：資料提示 P：作業 T：説明する	③	避難所の整備（指定）・開設は市町村の業務 災害はいつ来るかわからない 災害が発生したら，すぐに設置しなければならない 設置に必要な物資をあらかじめ保管しておく必要がある よって，市町村が保有・管理する施設の方が活用しやすいため
展開1：熊本市の財政状況から，課題の原因	なぜ，今の避難所にはさまざまな課題があるのか？ 避難所にも使える市町村の施設（例えば学校）を増やしたり，危険な地区から移動させたりすることはなぜ難しいのか？	T：発問する T：発問する	④⑤⑥	
	施設を増やすにしても，移動させるにしても必要なお金。まず，熊本市を事例に，市町村のお金の状況（財政状況）を確認しよう			
	資料⑦を確認しよう。これは，熊本市の令和3年度の予算・決算の状況である	T：資料提示 T：説明する	⑦	
	分からない言葉や不思議に思ったことはあるか？	T：発問する P：答える	⑧	（例） 国庫支出金とは，使い道の決まった国からの補助金である 県負担金も同様 市税とは，市による独自の収入 地方交付税（地方交付税交付金）とは，国で一括に集めた税金を，財源の不足分に応じて，地方に配分するもの。自治体間の不均衡を少なくするため。使い道は自由。ただし，財源が潤沢な場合，地方交付税（地方交付税交付金）は交付されない 市債とは，市の借金 4200億円の予算のうち，11パーセントが借金。35パーセントは使い道が指定。残り54パーセント程度が自由に使えるお金 土木費（施設を増やしたり移動させるために用意されているお金）は，10パーセント以下 例えば，1学年3クラスの学校を作るとすると，12852㎡（約4000坪）＋運動場で21406㎡。資料⑨の建築費試算で計算すると，全部平
つまりどういう状況か？	T：発問する P：答える			
では，学校を建設するのにいくらかかるか？	T：発問する		⑨⑩⑪	
資料⑨～⑪をもとに，大まかに計算してみよう。	T：資料提示			

社会科における段階的防災教育

<p>を考えよう</p>	<p>資料⑨は学校を作る際の基準となる面積，⑩は建築専門サイトのコラム，⑪は文部科学省の補助金割合のページである</p> <p>では、熊本市の場合、現状、小学校や中学校のある場所は、どのような災害の危険性があるのか？ハザードマップを見てみよう。</p> <p>これだけの予算をかけることは可能か？</p>	<p>P：作業 T：説明する</p> <p>T：資料提示 P：作業 T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p>	<p>屋だとしても41億はくだらない。仮に国からの補助が半分あったとしても、20億。これは建設費のみ。新規建設の場合は土地取得代、建て替えの場合は仮設校舎の建設費用などが別途かかる</p> <p>⑫ 熊本市南区のほぼ全域と中央区・西区の広範囲にわたって洪水の危険性が予測されていることが分かる 熊本市内には、小学校が92、中学校が43あるが、かなりの数が土地のかさ上げ（場所があれば移転）の対象といえる</p> <p>現在の予算規模では非現実的。他の支出をいくら削っても捻出しきれない</p>
<p>展開2： 熊本市の財政状況を踏まえて、課題の対策を考えよう</p>	<p>ではどうするか？</p> <p>収入を増やすにはどのような方法があると思うか？</p> <p>市税を上げるとどうなるか？</p> <p>借金（市債）を増やすとどうなるか？</p> <p>他にはないか 資料⑦の収入で残ったものは何か？</p> <p>それを増やすとはどういうことを意味するか？</p> <p>なぜ、地方の業務を行うのに、国に依存するしかないのか</p>	<p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する T：説明する</p> <p>T：発問する P：答える</p> <p>T：発問する T：説明する</p>	<p>収入（歳入）を増やす</p> <p>(例) 市税を上げる（増税） 借金（市債）を増やす</p> <p>⑬ 地方交付税（地方交付税交付金）が減額されるので、結果的に収入は増えない。地方交付税（地方交付税交付金）分を上回るほど増税すると増えるが、その場合は住民の流出が起こりかねないこと あまりに増やしすぎると、「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に抵触しかねない</p> <p>国庫支出金・県負担金</p> <p>国庫支出金を増やす（国が責任をもって、避難所のかさ上げ等を決め、そのための補助金を全国の市町村に配布する）</p> <p>三割自治という揶揄があること 財源が弱い（本当に三割しかないわけではない） 権限が弱い</p>
<p>終結：構造を見据えて考える</p>	<p>避難所に関する現状と課題を踏まえて、自分たちにできることは何だろうか？</p>	<p>T：発問する P：まとめる T：説明する</p>	<p>公助の拡充の重要性 人命を守るのは、政府の一番大事な任務。避難所の現状と課題を伝え、積極的に動くように、国に訴えるしかない 「地方自治は民主主義の学校」と言われる。地方分権を進めていくように財源の面からも、国の在り方を見直すよう求めることも必要ではないか</p>

資料出典

- ① youtube映像（国府高校のパイプ椅子による物資メッセージ）（URL：https://www.youtube.com/watch?v=qMeJYxCEcyU，最終閲覧2022年9月10日）
- ② 熊本市指定緊急避難場所・指定避難所一覧（URL：https://data.bodik.jp/dataset/431001_seisaku15/resource/b1f226fa-e1fa-4c09-97a6-63b790c0372c?view_id=7fe5bb30-6095-478c-b810-1a717e01d735，最終閲覧2022年9月10日）
- ③ 熊本市ホームページ：熊本市避難所開設・運営マニュアル（URL：https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=25322&sub_id=2&flid=245793，最終閲覧2022年9月10日）
- ④ スフィアハンドブック（URL：https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2019/10/spherehandbook2018_jpn_web.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ⑤ 文部科学省ホームページ：公立学校施設の老朽化対策の推進（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1334433.htm，最終閲覧2022年9月10日）
- ⑥ 文部科学省ホームページ：浸水想定区域・土砂災害警戒区域に立地する学校に関する調査の結果について（URL：https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_bousai-000015375.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ⑦ 熊本市ホームページ：熊本市の財政状況（URL：https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=19521&sub_id=15&flid=300592，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑧ 総務省ホームページ：令和4年度 不交付団体の状況（URL：https://www.soumu.go.jp/main_content/000826808.pdf，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑨ 文部科学省ホームページ：小・中学校規模別校地面積基準表（URL：https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/23/10/attach/_icsFiles/afieldfile/2011/10/28/1312682_1.pdf，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑩ アーキブック（URL：https://archi-book.com/news/detail/245，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑪ 文部科学省ホームページ：国庫補助事業について（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/zitumu.htm，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑫ 熊本市ハザードマップ（URL：https://hazard.kumamoto-city.jp/sphone.html，最終閲覧2022年9月11日）
- ⑬ e-Gov法令検索：地方公共団体の財政の健全化に関する法律（URL：https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=419AC0000000094，最終閲覧2022年9月11日）

資料3：中学校段階（対比や因果律を適宜活用し、社会的にわかる場合）の授業試案

単元名「避難所の現状と課題」

単元の目標

- ・予算（財政）とは、社会のメンバー全員が必要とするもの（なければならないもの）を提供するためにあり、どのような社会を築きたいかに応じて、予算（財政）の在り方を考える必要があるものであることが分かる
- ・上記の予算（財政）に関する見方を踏まえ、どのような予算（財政）を組めば、避難所の課題を克服できるか、考えられる
- ・避難所の現状と課題に関して、目指すべき社会像を踏まえて判断できる

単元の展開

過程	教師の発問や指示	教授学習過程	資料	児童・生徒に習得させたい知識・技能（予想される反応）
1 時 間 目	導入： 課題提示	<p>今の避難所にはどのような課題があったか？</p> <p>避難所にも使える市町村の施設（例えば学校）を増やしたり、危険な地区から移動させたりすることはなぜ難しいのか？</p> <p>では、どうするか？</p> <p>日本の政府の財政状況を踏まえ、どうすればそのようなことが可能か、考えよう</p>	<p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する</p>	<p>①②③</p> <p>個人のスペースは狭く、老朽化したり危険な地域に存在する施設も多い</p> <p>膨大な予算が必要。避難所の整備・運営は地方自治体の業務だが、地方自治体では十分に整備しきれない 地方自治の脆弱性</p> <p>公助の拡充の重要性 人命を守るのは、政府の一番大事な任務。避難所の現状と課題を伝え、積極的に動くように、国に訴える</p>
	展開1： 日本の財政状況から現状を知る	<p>資料④を確認しよう。これは、日本政府の令和2年度の予算・決算の状況である</p> <p>日本の予算規模は？</p> <p>そのうち、削ることが不可能に近い支出（歳出）はどれ？</p> <p>他方、歳入の状況は？</p> <p>避難所（学校）の新設・改築（かさ上げ）のための国庫支出金を増やすとは、いったいどこをどう増やすことを指すのか？</p>	<p>T：資料提示</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：発問する S：答える</p> <p>T：説明する</p>	<p>④</p> <p>182.2兆円</p> <p>23兆弱、国債費：借金返済や利払い 16兆、地方交付税交付金等（自治体に配分することが決まっている）</p> <p>租税及び印紙収入が60.8兆 公債金（借金）が108.5兆</p> <p>文教および科学振興費、ないしは公共事業関係費の予算額を増やし、国庫支出金として（目的外使用を禁止して）地方自治体に配布する</p> <p>財政とは、社会のメンバー全員が必要とするもの（なければならないもの）を提供するためにある どのように組むかは、その時代の価値観や社会観を反映する（どのような社会を築きたいかに応じて、財政の在り方を考える）</p>
	展開2： 日本の財政を組み合わせる	<p>どうすればそんなことが可能となるか？グループで考えてみよう。その後ジグソー学習に移行するので、入念に調査し、それぞれに内容を把握すること</p>	<p>T：指示する S：グループワーク</p> <p>T：適宜資料提示</p> <p>T：適宜グループ別に指導（机間巡視）</p>	<p>⑤⑥⑦⑧</p> <p>①に対して：教科書166～169頁（東京書籍）、および⑤など ②に対して：資料⑤⑥など ③に対して：教科書140～149頁、160～161頁、および⑤など ④に対して：資料⑤⑦⑧など ⑤に対して：教科書162～165頁、および⑤など ⑥に対して：教科書162～165頁、および⑤など ⑦に対して：教科書162～165頁、および⑤など ⑧に対して：教科書：156～159頁、および⑤など ⑨に対して：教科書：158～159頁、および⑤など</p> <p>①に対して：現在の国民負担率（中福祉・中負担国家）、少子高齢化、など ②に対して：現行の日中関係や日米関係をどう考慮するか、など ③に対して：産業の空洞化をどう予防するか、企業福祉国家である現状をどうとらえるか、など</p>

社会科における段階的防災教育

				④に対して：資料⑤⑦⑧の詳細，など ⑤に対して：現在の国民負担率（中福祉・中負担国家）など ⑥に対して：産業の空洞化をどう予防するか，企業福祉国家である現状をどうとらえるか，など ⑦に対して：逆進性をどう考慮するか，など ⑧に対して：MMT理論をどう評価するか，など ⑨に対して：景気とは何か，回復するとはどういうことか，など
	の 終 課 結 題： 提 次 示 時	各グループでどういう結論になったか？ 次時は，各グループでの結論を共有し，まとめよう	T：発問する T：次時の課題を提示する	
2 時 間 目	導 入 ： 課 題 提 示	前時の各グループ①～⑨から，各々一名でグループを組みなおし，それぞれのグループの前時の成果を共有し，まとめよう。どのように財政を組みなおし，避難所（学校）の新設・改築（かさ上げ）のための国庫支出金を増やすか（費用を捻出するか），あるいは，それをあきらめるか。	T：本時の課題を提示する S：グループワーク	
	展 開 ： 財 政 の 組 み 換 え と 社 会 観	まとめた結果を発表しよう	T：発問する S：グループごとに答える T：グループの答えに対して，それぞれコメント（説明）する T：説明する	(例) ①削減は不可能。増税して国庫支出金を確保するしかない。 ②増税は痛みを伴う。具体的にはわからないが，最も支出の大きい社会保障費を削減するしかない。 ③削減は不可能。増税も不可能。国庫支出金の増額はあきらめ，自助や共助を求める。 ①に対して：それは結果的に「大きな政府」を目指していることになる。今回は避難所が事例であるが，高福祉国家（北欧）などの社会が一つの参考モデルになること。ただ，日本の政府は国民からの信用度が低いため，増税は困難。また，どうしても必要な政策なら増税もやむなしだが，現在の財政状況を見ると，増税分は借金返済に充てられるため，少々の増税では，実現不能。それでもそれを求めるか。 ②に対して：財政とは，社会のメンバー全員が必要とするもの（なければならぬもの）を提供するためにある。その原則を踏まえたとき，増税ができないとするならば，大きいかどうかではなく，必要かどうか（優先順位）で決めるしかない。何を優先的に提供する社会にしたいか。また，自分にとって現時点で優先的かではなく，自分もいずれそれを必要とするかもしれない，という観点から，全体にとってそれは優先かを考慮する必要があること ③に対して：現状維持ということ。菅前総理が「自助・共助・公助，そして絆」と主張した理由。ただ，政府は一人では対応しきれない問題に対して，公助を行うための機関。その政府が最初に自助を求めるのは，本末転倒。 そしてもう一つ。「小さな政府」というものもあること。別名夜警国家。必要最低限のことだけを国が行い，残りは自己責任とするアメリカがモデルとなる社会。
	見 終 結 え ： 社 考 え 観 を	避難所に関する現状と課題を踏まえて，自分たちにできることは何だろうか？	T：発問する T：説明する	一つの政策の是非だけでなく，君たちは，どんな社会に生きたいか，それを考えながら一つの政策の是非を考えること。 また，そのような観点から政府や公的機関の行為や財政を評価・監視すること（決して総額だけで，予算を見ない）

資料出典

- ①スフィアハンドブック（URL：https://jqan.info/wpJQ/wp-content/uploads/2019/10/spherehandbook2018_jpn_web.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ②文部科学省ホームページ：公立学校施設の老朽化対策の推進（URL：https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyosei/1334433.htm）
- ③文部科学省ホームページ：浸水想定区域・土砂災害警戒区域に立地する学校に関する調査の結果について（URL：https://www.mext.go.jp/content/20210608-mxt_bousai-000015375.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ④財務省ホームページ：令和2年度一般会計決算概要（剰余金）（URL：https://www.mof.go.jp/policy/budget/budger_workflow/account/fy2020/yosankessanhikakuhyou.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ⑤井出英策『財政から読みとく日本社会』岩波書店，2017年。
- ⑥さらなる国民的議論が求められる防衛費の大幅増額（URL：https://www.nri.com/jp/knowledge/blog/1st/2022/fis/kiuchi/0719_2，最終閲覧2022年9月28日）
- ⑦なぜ歳出削減は容易でないか？（URL：https://www.carf.e.u-tokyo.ac.jp/admin/wp-content/uploads/2020/06/zaisei5-material.pdf，最終閲覧2022年9月10日）
- ⑧「どうして歳出減らせないの？」—30代のための財政入門【7】（URL：https://dilemma-plus.nhk-book.co.jp/talk/6542/，最終閲覧2022年9月10日）